

2022 年度

## 第25回広島ユネスコ活動奨励賞 受賞団体の紹介

2022年度第25回広島ユネスコ活動奨励賞は、学校部門4校と社会部門5団体の計9団体（校）に授与いたしました。ここに受賞団体の概要を紹介させていただきます。

なお、各学校・団体名の横に示している「SDGs」（持続可能な開発目標）の番号は、後述してある開発目標の番号です。（広島ユネスコ協会教育部会で、開発目標への取り組みとして該当すると思われる番号を記載しています。）



受賞校・団体のみなさん

## 【学校部門 4校】



### ■ 広島市立五日市観音小学校（校長 福場 強志） ～岡の下川再生プロジェクト～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この学校では、2005年から総合的な学習の時間を活用して、4年生の児童たちが地域を流れる岡の下川にヤマトシジミの復活を目指す「岡の下川再生プロジェクト」に取り組んでいる。

昔の岡の下川（1950年代）にはヤマトシジミが生息していたが、生活環境の変化とコンクリート護岸などの整備に伴い見られなくなった。そこで、地元住民でつくる岡の下川環境保全推進協議会が「昔の川を取り戻そう」と呼びかけ、シジミの植え付けが始まった。

4年生児童は、シジミの植え付け活動を通して、シジミの持つ浄化作用や岡の下川に生息している生き物調査、川をきれいにするための清掃活動などに取り組んだ。自然との共生や身近な環境問題を児童一人ひとりが考え、自分たちにできることを見つけて発信している。

また、この活動は保護者や地域の方々（五日市観音ネットワーク、広島工業大学瀬戸内海共生プロジェクト）の支援・協力を得て、現在まで継続して取り組みが行われている。

地域の方々と共に活動することで、地域の一員である自覚と感謝・愛着を育むと同時に、大学生が児童の学びに関与することで、児童は大学生をよきモデルとしてとらえ、大学生は自らの学びを深めるなど相互理解が進み、双方に良い効果が表われている。

このように学校・地域が一体となって環境保護・保全と郷土を愛する心を育てている。

## ■広島市立己斐中学校（校長 溝下 明美）

～ヒロシマの思いを世界へ～仲間とのかかわり合いを通して～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この学校は、広島市の平和教育推進校として「ヒロシマの思いを世界へ～仲間とのかかわり合いを通して～」をテーマに掲げ、英語科をはじめ総合的な学習の時間（言語・数理運用科）、道徳や国語、社会など各教科を横断的に関連付け、「平和を語れる人材の育成」を目指して取り組みを行っている。

特に、「平和公園フィールドワーク」では、平和公園を訪れた外国の方々に慰霊碑について英語でガイドし、「平和アンケート」への回答のお礼として自分たちで作成した英訳パンフレット「平和公園慰霊碑マップ」を手渡すなど、生徒一人ひとりにコミュニケーションの機会を多く設定し発信に努めている。

また、道徳、国語、社会における「平和ノート」を活用した核兵器の恐ろしさを伝えるメッセージ作りや 8 月 6 日の「平和学習発表会」に加え、「伝える HIROSHIMA プロジェクト」への活動にも参加し、平和を伝えるメッセンジャーとして各国駐日大使などにヒロシマの思いや自分の考えを様々な方法で伝えている。

今年度は、これまでの取り組みをさらに継続・発展させ、世界に目を向け異文化への興味・関心を高めさせるとともに、生徒一人ひとりに平和な社会を築くためにできることを考えさせ、ヒロシマの中学生として自分の考えを様々な方法で表現できる人材の育成に取り組んでいる。

## ■ 広島県立広島観音高等学校（校長 堀 隆典）

～被爆体験の継承を図るとともに、平和な社会を形成していくために必要な資質・能力を備えた人材の育成～



この学校は、1922年創立の広島県立広島第二中学校（以下、広島二中）を前身とする高等学校である。広島国際会議場西の護岸緑地には、建物疎開作業に当たるために集合して原子爆弾投下の犠牲となった広島二中の1年生と教職員（計323名）を慰霊・鎮魂する「広島二中原爆死没者慰霊碑」がある。1961年に建立されて以来、広島二中戦災死者遺族委員会と同窓会により清掃や慰霊祭を行っていた。2002年より、高齢となって取り組みにくくなった遺族や同窓会の人々の思いを受け継ぎ、この学校の平和活動の一環として生徒会を中心に全面的に支援・協力し実施してきている。

また、1年生においては、毎年広島テレビ制作の「つなぐヒロシマ」の中の映像「広島二中1年生全滅の記録」を視聴したり、音楽部OB合唱団が披露する「レクイエム碑（いしぶみ）」祈念コンサートを鑑賞したりしている。2年生においても、朗読ボランティア「森の会」による朗読劇「碑」抄の公演を鑑賞している（現時点では、コロナ禍により中断している）。

こうした活動を通して、広島二中の先輩たちの惨状をはじめとする被爆の実相を記憶に留め、今もなお慰霊碑に集う人々の思いを後世につないでいき、平和の維持・発展に貢献することのできる人材の育成に努めている。

※「碑（いしぶみ）」…広島二中1年生の被爆の瞬間から全滅までの惨状を、学校生活の様子も交えつつ描いた全9章の構成詩である。終章は、未来永劫の平和への祈りで結んでいる。

## ■ 広島修道大学（学長 矢野 泉）

～地域の人々とともに地域課題を解決する活動の企画・実施と調査・研究～



この大学は、社会連携活動の一環として、2010年度から全学部で「地域つながるプロジェクト」をスタートさせている。ねらいは、学生が主体的に地域社会の課題を発見し、その解決に当たって地域の様々な人や組織と話し合い、調査・研究を通して豊かな人間性を育成し、地域の活性化や魅力づくりにつなげていくことである。学生は、地域と連携を図り、地域資源の再発見や新たな意味付与など数多くの成果を残してきている。

例えば、人文学部教育学科山川ゼミでは、2017年度から廿日市市串戸市民センターと連携し、大学で学ぶ社会教育学の知識を生かして、社会関係資本（地域内外の人とのつながり）の構築やシビック・プライドの醸成を目的として、地域の人と共に活動を進化させながら続けている。1年目は、地域の人と共に作成した白地図をもとに子どもたちと地域を歩いて写真を撮り、子どもの目線からみた魅力マップを作成した。2年目は、地域に住む多世代の人々による対話とまち歩きを通して新たなつながりを促し、多世代の目線での地域の魅力の発見・発信をし、3年目は、SNSによる魅力発信により地域内外のつながりづくりと地域の魅力共有に努めた。コロナ禍で1年空いて4年目には、地域の人が発案した「子どもがつくるまち」というドイツ発祥のシビック・プライド教育に参画をした。

このように、大学での学びを地域貢献に活用するとともに、広島未来を拓く人材を育成し続けている。

## 【社会部門 5団体】



- 木曜通訳ボランティア（代表 西岡 志津子）  
～英語通訳ボランティア、通訳ボランティアスキルアップ学習、  
廿日市平和ツアーの企画運営～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この団体は、廿日市市国際交流協会の英語通訳ボランティアが自主グループとして結成したもので、1995年10月から27年にわたってメンバーの英語学習と各種行事の通訳ボランティア活動を続けてきた。現在13名のメンバーが活動し、廿日市市の大きなイベントである8月6日前後の平和ツアーの企画運営に積極的に関わっている。

英語学習の例会は、月2回のペースで続けている。学習方法は、メンバーが交代で題材を用意して進行したり、外国人講師を招いてディスカッションしたり、英語基礎トレーニングを行ったりするなど工夫して、楽しみながら通訳ボランティアのスキルアップに努めてきた。通訳の活動は、廿日市市や各種団体の行事でのボランティア通訳の依頼先として広く認知されており、広島市の平和公園内原

爆慰霊碑めぐりや県外大学からの留学生の平和記念式典参加を支援するなどして活動範囲を広げている。また、世界の人に被爆体験を伝え関心を高めてもらうため、似島や大久野島、広島戦災孤児育成所「童心寺」を訪ね、原爆や戦争に関わる学習を行ってきた。

こうした継続的活動により、市内外や世界の多くの人に、英語コミュニケーションや国際理解・平和の大切さを伝えており、今後の活躍が大いに期待されている。

## ■被爆ピアノ友の会（代表 手島 秀昭）

～被爆ピアノが奏でる平和の賛歌～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この団体は、爆心地から 1.5～3km の範囲にある民家や学校で被爆したピアノ 6 台を所有者からの寄贈を受け、自費で修理修復し、要望のある全国各地のイベントやコンサートの会場に自ら運搬して届けることを 2001 年から 21 年にわたって継続している。その回数は約 2500 に上り、その際に広島市長のメッセージを開催地の市長に渡し、平和への願いを伝える役割もしている。

この活動が始められた契機は、1998 年に平和公園で行われた被爆証言とコンサートで被爆ピアノが初めて使用された際に想像以上の反響があったことである。近年では世界的にも活動している。2017 年に核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞したことを記念するオスロでのコンサートでは、この被爆ピアノによる演奏のために当団体所属の調律師も現地を訪れている。さらに、2020 年に公開された被爆ピアノを題材に制作された映画「お母さんの被爆ピアノ」が 2022 年 9 月開催のロサンゼルス日本映画祭で平和賞を受賞しているが、その映画制作費 7500 万円を全国各地からの募金で賄う活動にこの団体は全面的に協力している。この長年にわたる恒久平和を願う活動は、国際的にも広く知られるようになっていく。

■大学生ボランティアサークルおとなりさん（代表 下平 桃寧）  
～大学生がつくる地域の子どもたちのための居場所づくり～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この団体は、広島修道大学と安田女子大学の学生が地域の児童・幼児らの居場所づくりを行うために運営する活動を行っている。2002年に学校週5日制が始まった時、安佐南区の学校区にはまだ児童館がなく、放課後や週末における地域の子どもたちの居場所づくりの充実が求められていた。広島市教育委員会（青少年育成部）の呼びかけに応じたのが近隣の大学生で、安公民館を活動拠点にして、子どもたちの体験活動の場となる「おとなりさん」を同年6月に結成し、今年20周年を迎えている。

具体的な活動として、①放課後・休日に子どもたちと学生が触れ合える場として開かれる「おとなりさんのあく日」を年間数十回、②工作・ゲーム・調理などの「おとなりさんイベント」を年4回程度実施している。2019年の参加者は、①には444名、②には97名であったが、コロナ禍の現在、活動や回数に制限を受けながらも、メンバー間のチームワークによって活動の継続に力を入れている。

「住み続けられるまちづくりを」に寄与する役割を果たすとともに、学生を将来的な地域人材の育成・輩出へ導くなど多面的に貢献しているこの団体は、SDGsの優れた取り組みとして高く評価されるものである。

■特定非営利活動法人 I PRAY（理事長 上久保 昭二）  
～戦争のない平和な未来を願う創作劇の公演活動への取り組み～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この団体は、平和への願いを伝える公演活動を行う目的で1996年に設立され、2010年にNPO法人化し、現在まで27年間継続的に活動している。平和創作劇「I PRAY」は、平和の大切さと戦争のない未来を願い、原爆が落ちる前の広島、原爆が投下された広島、復興の広島を演じるミュージカルで、年1回8月の定期公演に加えて、国内各地の記念公演も開催



している。海外では韓国やギリシアで公演し、市民レベルの国際交流を行ってきた。

一般公募は、平和な未来へ願いを込める意味で小学生から高校生、大人までを対象としている。特に、戦争のない平和な未来が来ることを信じ、次世代を担う子どもたちが平和の尊さと大切さを力の限り訴える創作劇となっている。2020年から3年連続でYouTubeライブ配信も行うことで、海外でも観られるようになった。2022年の参加状況は、来場者260名、配信視聴者約240名であった。

こうした子どもたちや市民が平和を築くために文化の創造に地道に取り組んでいる活動は、「平和と公正をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」というSDGsの行動目標をめざす活動として高く評価されるものである。

## ■旧被服支廠の保全を願う懇談会（代表 中西 巖） ～被爆建物の保全による被爆の実相の継承活動～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この団体は、旧被服支廠をはじめとする被爆建物の保全を通じて、2014年3月から継続して被爆の実相の継承に努め、平和の啓発活動を行っている。

その活動は、旧被服支廠の建物見学会や広島市内のピースウォークの開催（各回それぞれ20～50名参加で年に数回開催）、写真展、更に講演会の開催（50～100名参加で年2回開催）、また、「赤レンガ倉庫は語り継ぐ 一旧広島陸軍被服支廠被爆証言集一」を500部刊行して、無料で全国の都道府県立図書館等への配布等、被爆の実相を広く伝えている。

更に、その活動により、旧被服支廠の建物の歴史的価値の重要性が認識され、再度の耐震性調査が詳しく行われた結果、当初1棟保存・2棟解体・1棟未定であったものが、4棟とも保存の方向で、利活用方法を検討されることとなった。専門家・有識者・被爆者・行政等が参加する「旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会」が広島県を事務局として設置され、これまで4回開催されている。

この団体の活動は、旧被服支廠を平和のために利活用することへの人々の理解に大きく影響を与えており、世界平和の啓発に貢献、寄与するものであり高く評価される。

## ミニコンサート

授賞式の後、竹屋ギター・マンドリンアンサンブルによるミニコンサートが行われました。



## 受賞校・団体のプレゼンテーション



# \*\*\* SDGsとは? \*\*\*

- SDGs（持続可能な開発目標）とは、「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年の国連サミットで採択された2030年までに達成するために掲げられた17の行動目標です。

「平和に暮らすことを阻むあらゆる状況」について、発展途上国、先進国を問わず国際社会が一丸となって解決していこうと掲げた、世界を変えるための目標です。



## ■ 行動目標

- 1 貧困をなくそう！……あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。
- 2 飢餓をゼロに！……飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。
- 3 すべての人に健康と福祉を！…あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。
- 4 質の高い教育をみんなに！…すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

- 5 ジェンダー平等を実現しよう！……ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。
- 6 安全な水とトイレを世界中に！……すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。
- 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに！……すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ現代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
- 8 働きがいも経済成長も！……すべての人のための持続的、包括的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及び働きがいのある人間らしい仕事を推進する。
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう！……強靱なインフラを整備し、包括的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る。
- 10 人や国の不平等をなくそう！……国内及び国家間の格差を是正する。
- 11 住み続けられるまちづくりを！……都市と人間の居住地を包括的、安全、強靱かつ持続可能にする。
- 12 つくる責任、つかう責任！……持続可能な消費と生産の形態を確保する。
- 13 気候変動に具体的な対策を！……気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を講じる。
- 14 海の豊かさを守ろう！……海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し持続可能な形で利用する。
- 15 陸の豊かさも守ろう！……陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、並びに土地劣化の阻止・防止及び生物多様性損失の阻止を図る。
- 16 平和と公正をすべての人に！……持続可能な開発に向けて平和で包括的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包括的な制度を構築する。

17 パートナーシップで目標を達成しよう！……持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

